



美舟一巻

12
881
6



海のそととて死なむとありあり 河 發方 修驗 細 年花

てハ現世乃祈禱もとの本とせし後世のほとめとて本

世もよと人さるもの也 采 祈加持也

うとくま物はくるとて 采 封とあるへ 細 符と

るるへ 河内本をさるるへとてあんやま

とくもさるてふつうちもとてふら海やと日さうくうあり

ぬもさうたらつてけいんわて 修 今とさう死はよてあじ

に僧とさうやとあさうとていんぬらるる 細 とうせいのさる也

世悟 飲つるもとて死つるもやま也 細 とうせいのさる也

吸心也 ね乃系とて死にぬると云也 細 とうせいのさる也

きくこのけくらわ乃志とに 河 盤折通巖巔 白氏文集

臧陝或九折 法か納之松常子とて 近き物く海の

はくらわつとて也 細 ともと志か寺とみる 誤也 松常子

く海のはくらわつとて

あまのふ葉なれとてあうらうとてわして 細 修那坊の

まつとひ乃可然と後より美のさるるなるてやと

しるもとてあやとていんぬらるる也 采 花物結を無修那

おあし 修那坊のさる也

いんぬらるるもやうとてはくもていんぬらるるもやうなるに

のあまのふ葉なるもやうなるに修那坊 細 屋廊也

るるへ 修那坊 采 南流 維とてさる

のあまのふ葉なるもやうなるに修那坊 細 三年 禁是乃

うとまあもさるる也

あまのふ葉なるもやうなるに修那坊 細 源氏の也

あまのふ葉なるもやうなるに修那坊 細 源氏の也

てしるるに終る程みあまりに柳宗るる清しうと僧部
いひてこそとれと怪つる詞也

まじりてあまのつらもあまのつらとていふはうきそとつらと
あむらとるもはるもあまのつらにみゆ 昇 僧部乃きるる人

— 細 女童也尼公乃きるる人 —

しとに女こそあまのつらに僧部かつとてやうみそとつらり
とつらる人あまのつらとつらりてのそことあまのつら
もたれ 細 津信の人乃き也

女こそつらりて人あまのつらとつらりてあまのつらをわこまひ
終ひり 果 二人りつらり —

白きつらあまのつらにいつあまのつらとつらりてつらとつらりて
とつらりてあまのつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて
きつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて

細 癩病

果 癩の

新にあられつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて
思はれぬつらりてつらとつらりて

うつらりてつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて
つらとつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて

秋山終日兼て眺望深 紀綱言長公雄心 細 原乃つらりてつら

癩とつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて
つらりてつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて

あつらとつらりてつらとつらりて

つらとつらりてつらとつらりてつらとつらりてつらとつらりて

細 源の親也

つらとつらりてつらとつらりて 細 けつらりてつらりてつら

人乃國をたつらる海山のありとつらりてつらとつらりてつらとつらりて

人の心 細 他國也伴勞物終よ人の國あまのつらりてつら

細
備六乃其のち也

いしつゝ〜〜〜細 かしつゝ〜〜〜也あまうにはくろひきり

横新事〜〜〜也 何 序後〜〜〜也

大長乃後あ〜 細 的なるのち也大長乃後流〜〜〜也

〜〜〜也

りそ〜〜〜也〜〜〜の世のひつ物あ〜〜〜

と〜 也あ〜〜〜也

とま〜〜〜也あ〜〜〜の官の横〜〜〜也

大長家の〜〜〜也

〜〜〜の中あ〜〜〜也

何 藤原の〜〜〜朝長長徳元年正月十三日辞た中將経法

奥守即日還昇は外例可敷 中あ〜〜〜也

〜〜〜の官を移〜〜〜也

て國のちにあ〜〜事ハ〜〜念ろ〜〜

〜〜と〜〜〜也

〜〜と〜〜山蔭中納言中納言と辭して海前等に任して

〜〜と〜〜三伏実録〜〜也

〜〜と〜〜中あ〜〜也

〜〜と〜〜也

〜〜と〜〜也

〜〜と〜〜也

〜〜と〜〜也

〜〜と〜〜也

〜〜と〜〜也

〜〜と〜〜也

とやそて父乃王あしひにまよふ乃四人王をたに引向て死せ
 しとあるものあり エキシヤクテニヨ 古洋天女のむ縁より又波 チヨウラ 延経
 王の八葉乃女の母と王の妻とをたれと名とすむり サヤイ おお
 るくゆり 細 只海入ねとまにふりてのまるとはをま
 也 花乃乃説あそ及るくくは

つひさむをめあるとんまうさうらしやとてしとくぬ
昇 一福つとさとあそりゆり 細 名入道乃ゆとさう

かづつとらうのうとこれ 細 良清也

花人乃とあしとらありえとらありあり 花 正月六日
 の叙位よ六位乃花人ハ必巡爵とて從又位下に叙マ
 ぬ 細 乃とあしとらありえとらあり 細 乃とあしとらあり
 ひと年の除目に叙爵もる也 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり

ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 あしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり

ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 あしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり
 ひととあしとらあり 細 乃とあしとらあり 細 乃とあしとらあり

松尾卷に大升乃まゝ ケシキ 魚明親王乃とらん也 ケイゾク 乃とらん也 カ 乃とらん也

ねのりみちらうひらる清きまればいじむすめらちほくもく入
れりてく推^{スリ}るもてや也

くれつらぬれとたつてき路をいひありぬるにこそいほめれ
^細と白きもりのほほらるらち紛く瘧をぬきき路をぬ

もやうなるき路をぬとあるも人かき路のぬきもぬらうら
まは家もぬよたりしうもあはらうらひきさるもぬらうらま

とぬらうらぬぬき路をぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬ
まらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬ

らうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬ
らうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬ

とぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬ
とぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬらうらぬ

ゆきしるしにうもあしめやとらひとあり 河 輯 日本紀 熊

文選 罪 某 ちうらひきりる細也

か細きめれとやそひもいあるふこのよろしうもあつて

尼えつてあまわさるやういふうもあつて

か細きめれと 細 某 上のめれと也

よのうかきもあひふまうぬる余とてあつて

一 某 尼公はは親業一 行も也

しめめしうい行はしうはしういふとそやけひよさやゆり

うきとて 細 某 親業鳥 沙弥 細 沙弥 戒経 といひきり

あちやせりてはらわらる 細 ちうらひと也 某 ちうらひと

と 尼公のめれ也

けしういもあつてあつてあつてあつてあつて 何 類 面 核 学

亮 日本紀 日 某 ちうらひと也

ちうらひとあつてあつてあつてあつてあつて 河 某 也

雅 細 某 ちうらひと也 某 ちうらひと也 某 ちうらひと也

ちうらひとあつてあつてあつてあつてあつて

某 ちうらひと也 某 ちうらひと也 某 ちうらひと也

くれろくを思ふ程くみめん 河 夏トシノナ

草乃活むり海とこの坊ありをまらむをゆるんをれいと母
多兒あやしく移るる 早下乃河有る人

河樹下集

そのくまろついと井此處におまめり草の道とくやあそん
天台大師活忘日意惠僧正被誨也子僧贖一心也クササ

ある道同も也

いぬる十日のりけとるもわくやまにらるるゆりときい
ささあつてそくさくゆれんのをへつすくにあそくに
入ゆれと 細 原乃河也 早保の僧部へはあそも也

くさやうある人のまらわくをさあ付くをある人さそと
ちりうらとわいとわくやあひゆへはくそあそくそ志の
ゆるる 細 効強あそくそあゆらるるさそ美一強とてハ
部くとの威徳とつくとあそゆはよ思路も也是と原乃

用とらるるに教る也 不け河妙也 原の法んはくみむ

菟齋カサキと 早大徳オホトクのカサキ持とてさそくそ世のそ

えと心つく死地をれハ徳く思路との行也

とそ好こととの移るる 細 僧部乃即人思とすはる人

まさとあひ移るるも也

とれとら僧部よりと行る 細 僧部乃やくそ美路也

早 原氏乃使くそあそくや僧部より行るも也

は所なれとて心つくくそんくそ思んあそあくせり
思りれ移るる人なれとく移くしそ法者な彼とくそそあ
うわもあは 早 原乃思心やく移くしきうらそ僧部の心

也他原の也也

かくあそ思ははとの法物くそとそ中へ行て 早 僧部

梅ウメは二ヶ年と刃くそり

ねるや一葉乃つちりたるれと 茶僧於の詞也

とくすし一死ありるれを清くんせさきん也

茶アラスカカリヤセニハ 淨細しきや八時部いんくくは水の清く清きるるとも也

茶アラスカカリヤセニハ 非納涼信細さ紗とつら

せらに穿し給へん 茶はよくあわてPされん也

あのみまんとぬくにあとくしうひさうをばらとつてま

うおひせや 細さたは僧於乃尼公は我清くゆきとくし

をいひさうを給へんと立寄給故よとんわらうまも人き

せよとや移りしあうしあある也 茶茶は尼公り原

乃ととこの世にのちるも給え原成と尼公り原

せんやちとくPあましる也 茶は上乃る也

何んれありはる有あも也 茶は上乃る也

つらうとそてわらぬ 何不審和ゆくも也

まにやと心をとにうりありてわあ一本茶ととうる也

後より 茶源氏被僧於乃坊のなぬと思は心也

月とるたはなれとやと水ようらとたと一やうらるると

とふらとそらうあわめといとさうまにさうくひけう

やうひ乃はもとらとと茶うらう

茶アラスカカリヤセニハ 茶源氏被物んみくくをらとつて 茶つふと何のうらる可然と

也ととくくくもはめとと也

まやうくはうらと白ひみらうらに茶乃清とひねつとそと

まは 茶はよなるもとる香と云半コグ及梅檀ヒシとと名は

茶とつて

うらの人いも心けうひと人うめり 茶尼公乃くの人茶也

僧部世乃はゆる記清物結 細 茶は説きうをPらう也い

時僧於の詞録後也

後の世乃ちとちとらこころを給 細 止らざる僧ハ僧ハ新
てハ必^{カキラズム}常^{レヤウ}乃^ハは理^ヲと演^ユ説^スする礼^ノ義^トと云^フ一

我^レ法^ハは^レの^目と^心と^をわ^スる^一う^ハあ^らは^スる^心と^をわ^スる^一
あり^しと^らと^しこれ^とわ^スる^一や^びる^心と^をわ^スる^一 茶あ^らは^スる^一

こ^ノ世^ノ終^ルに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 茶あ^らは^スる^一
や^もと^も也

ま^して^ハ後^ノ世^ノ乃^チと^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一
終^ルに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 細 原^ノの^まし^て我^レ

力^ノの^ころ^とと^をわ^スる^一也
望^ノの^面終^ルに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 細 の^その^死終^ル時^ノの^事

也 茶 止^ラる^一乃^チと^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一
う^にに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 細 原^ノの^心也^ト云^フ

これ^もも^とと^をわ^スる^一 細 原^ノの^心也^ト云^フ

と^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一 茶 止^ラる^一乃^チと^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一

う^にに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 細 僧^ノ部^也

う^にに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 茶 僧^ノ部^ノ也

故^ニ按^テ宗^ノ大^ニ細^キを^無に^シて^ハひ^きを^なり^侍ぬ^れん^と云^フ一

か^くも^て後^ノ世^トと^をわ^スる^一 茶 止^ラる^一乃^チと^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一

か^くも^て後^ノ世^トと^をわ^スる^一 茶 止^ラる^一乃^チと^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一

う^にに^ハは^レら^レと^云ふ^心と^をわ^スる^一 細 原^ノ乃^チと^らこ^ノ心^トと^をわ^スる^一

少くは河津也 乃原河津上と云ふもわがりての是
 とも死にしと云ふにきわめてよめやくにまゆのありと云
 阿そいの修へん 采 無らめくもあはあしてまゝにその
 らふと尋せしと云ふや又ふめやくらぬやうなり也
 ひとめそくひらりと作りし 采 僧部也
 うそそこの十よ福んあやありゆめしん 采 安あくひ僧部
 乃初たれ八十余と云ふに可^レ積常^ニきとくそ阿まう
 也す淡原乃らおま也
 故大納之内よまもくんとくしあうりきゆとそまはいのこ
 とくともものゆくと 采 林中人まはく人あとうと也
 じくはゆふしくとそくこの尾末をくともてはくひ作りし
 ほといひちちらん乃志とさあり 采 色色 采 大納之化^カ別
 乃事也

考初乃宮らん思ひくわんひはきけつりあつて
 細 じあそく式^{キキフ}あそく也はまの文也 采 高直女流乃内^{キキヤ}会也
 ちとのおろちあんとあくちとてやとくあくちとあはく
 てあそくれ物とあひくちとあつてゆりし 細 本基しらと
 おそろくさん也 乃まのの本基也 采 林く福ん
 路も也やむともた故よりあく福んも福んや
 物さひよやまひはく物也 采 法師乃河とんひん
 細 僧部のおとし無あり 乃けはけ^{タウセホ}新多し
 采 眼^{カゼニ}あつらん路も也
 ちくそそのひなるもあり也あはくはくそま路の 細 ちくそ
 采 尼公乃孫也と推^スけ行也 采 ちくそハ世とそ古大納之の
 ひとめれよあくちとそくひ会路原氏の居心也
 采 ちくそはちくちかの人あとうひあつてちくちとやとあ

のりうけぬ 葉 何うの堂とてうたふ也

又ききしるもいともやまのいふに由はしきしきさくはたふ

望むくに吹くうらに 叶 善喜乃山中のいふ也

海のうらとていふらりてととらうらうら 細 海に海のあら

サンチライチヤノアメヒユキヤウバクチクノイツニ そひら也山中一葉西樹と百をと泉とてとらうら

何 海は海乃中ふとよとらうらとて我君はあらしとてとら

とらうらとてとらうらとてとらうらとてとらうらとて

細 引色乃は縁臨経なるん

とらうらとてとらうらとてとらうらとてとらうらとて

事おほくしてとらうらとてとらうらとてとらうらとて

とらうらとてとらうらとてとらうらとてとらうらとて

とらうらとてとらうらとてとらうらとてとらうらとて

またうらとてとらうらとてとらうらとて

とらうらとてとらうらとてとらうらとてとらうらとて

しつうしつうをふめあやしつうつうしつうやとまきとらる紙字の給
て河邊也 岸は河はひる由目也 案 少納言うまつき

乃らる也

佛の法志る人からくは入るもあしにまきあましつうる物也

その給 河 後真入於真永不聞御名 法元經

細 源乃河也くは入るもあしにまきあましつうる物也

案 僧法にいつしを行てられぬ比の給る也くは尼公へ初名此

奇よりしつう給る人にか納言とて行りんとあしにまき

そらまき人まきとらりしつうとて給る年つやとまきとらる紙字

給るの給るつう成へし

法志るつうとらりしつうあてらるにうらつせんうまきはうしつう

しつうれと 案 少納言うまき

つうらる物へのしつうとらりしつうあてらるにうらつせんうまきはうしつう

女のまき 案 少納言也その物よまきとらる人まきとらる紙字と

あしにまきとらりしつうの給るも少納言のあしとてあしにまきと

つうらる物へのしつうとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

まきとらりしつうとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

細 源乃河也

とらる物へのしつうとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

細 案 少納言のあしとてあしにまきとらる人まきとらるの給るも

とらる物へのしつうとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

あしにまきとらりしつうの給るも少納言のあしとてあしにまきと

つうらる物へのしつうとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

細 少納言のあしと

とらる物へのしつうとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

法物給るはまきとらる人まきとらるの給るも少納言のあしと

びんともんじとハ信都乃内物波の時たうこまうり一終ひ
るれとらうこまきこにういせや也

ものつらうらやうらうらとて中あらんとわらひらう一終
るう一やの終へんらうそ中あ 細原乃初也 采原乃初はら

子初るるくやと思ふして終やあれ也
あふらうらう一 采尼公乃初也

はまやうらういさるるやとにわらひらるとそおはきん 細
おもらう一とやと一らうと終らんと也

らうあうらうらうらうとつらきつ終らうとらうやうらうく
あや一たよやとらうれ也 采原氏君の采原乃初はらうの中うこ

一終内社母の尼公の生^{コト}とんあうらうとあぬもあまもと
はじとらうとやと一源氏乃一君の采原乃初はらうのうらうを
うらうとみはらうらうととの終と尼公をこれとらうらうらう

つらう中終らんとあや一とらうの終らうらう終り也
久しうらうれとあまをらうとて 細 終とあれとあまを

らうと也 采尼公乃五君とらうくやせと地とらうと也
採ゆあうらうひらうとの終をうらうみあうらうとらうらうとあん

采^{コト}集^{コト} 采^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうと也
采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也

采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也
采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也

采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也
采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也

采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也
采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也

采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也
采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也

采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也
采^{コト}集^{コト}乃^{コト}終らうとらうらうとらうらうとらうとらうと也

吾何言と云ふてかたし 細原乃初也 采はつて
とらるる也 采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて

采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて

采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて

采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて

采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて

采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて
采はつてかたし 細原乃初也 采はつて

けりし源の事と又交りてはけりし事とひよあはれ
けりし事と細 今比業と母とやくとれけり
てんとすこるれは同類とす人とも也 源と業と母
君也とせぬ也

くはちりてはこころと細 と懐とる人とも也
りてあはれとあはれと也

おほいしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと
こ 細 けりし事とけりし事と也

りてけりし事とさしとさしとさしとさしとさしと
かたよとさしとさしとさしとさしとさしと 細 尼公也

あし 細 けりし事とさしとさしとさしとさしと
きりし事とさしとさしとさしとさしとさしと

けりし事とさしとさしとさしとさしとさしと
けりし事とさしとさしとさしとさしとさしと
けりし事とさしとさしとさしとさしとさしと

印の 細 加持の 也

法うりし多路りて 聖に保乃は益とあり也

奥山の松乃と信そとてあきてまゝとぬたうかどる也

聖の心 細 山橋戸と稱ふあを

てのうは也 深原乃乃とていめてよめり

せうらるるんなる 聖 聖徳のさ海也

ひつと信ふもつにむとなる 河 獨結

見給る信都乃うとてさうりてあゝとてさうりて

あゝとてさうりてあゝとてさうりてあゝとてさうりて

ありとてさうりてあゝとてさうりてあゝとてさうりて

上宮太子者用明天皇之子也母后妃嘗与有一金人曰

欲觀名胎以弘佛法遂生之後自少小時聖徳被天下神

異遍海内遺小野妹子於唐朝渡先身持經取他經來

太子閉戸入之一旦貢美物而出吾進遺魂神一也實渡也

中日之間渡万里滄溟後彼山僧日其日令人乘空來取此

經聖帝因遠雲方書實異抄欽明天皇法皇聖徳太子

六年冬十月自百濟國經論律所撰所撰以丘尼以下と

後乃宝物と名りて但太子金跣子念珠事傳以下と

不見と或人云法隆寺太子乃法宝物の中へ念珠あり

連とにありて中へ金跣子念珠一連あり又彼寺の編記

ありとんしとありて 百濟國より金跣子と名りて大

師より八元真寺資財帳中九云喜多加子金剛子は亦百

濟國不致也と但聖徳太子の教珠の縁ありと見ゆ

ゆとんしとありていふとてさうりていふとてさうりて

あり常なる也 聖 聖徳のさ海也

後より信都乃うとてさうりて機極時宜とてさうりて

晋平公鼓琴之感玄豹亦下舞執也シラコバハ鼓琴ヒツ瑟シツ舞シラ而シテ鳴ナリ

魚イサ躍ノボ而シテ遊ユ多ク列レ子ノ公ノ源ノ氏ノ君ノ才ハ一ニ足ルつる也從テ河ノ抄シ

池ノ魚ノ息ノもシうチやクまリ有ル

あハしテこれハうチにシてハ細ノ流ノうチにシてハ彈ノ好也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The script is consistent and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script on the right page. The text is dense and covers most of the page area.

けいしん入の字活巻あもかんしんりてきんてふあしあつあつ
 さいみや嫁娶カニニ礼よかんしんりて懸去のつこやうの假令カトハハムラサキ成
 ぶるカキキノワスヤウフカハ横二重にあとちくしんりて引ひすひく
 墨スミと引てきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃
 ちくくけいしんて回薄横カキヨとはくくしんりて引ひすひく
 及カシラとゆあ也是よ言と引サレヒカ下カシラ後也 乃 死ニ同
 ちくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃
 ちくくけいしんて回薄横カキヨとはくくしんりて引ひすひく

めとあやまのゆりうりや 某 ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃
 ちくくけいしんて回薄横カキヨとはくくしんりて引ひすひく

あふしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

細 尼公のん也 某 尼公詞也

ゆくての活巻とてき 細 是よ言とて引サレヒカ下カシラ後也 乃 死ニ同

りしや 某 活巻とてき 細 是よ言とて引サレヒカ下カシラ後也 乃 死ニ同

ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

細 ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

細 ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

細 ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

細 ちくくしんりてきんと又薄横カキヨ一色あつ茶ゆシヤキンの御金シヤキンとて乃

あつちつわねのへろ橋らつぬとつとめあつはとろつとれと

昇 原の奇はまよととろつとにまことてよめつ尼公のぬ奇

二向はたろつとるもつとる也イッパ 細花のうへのとらり

実 紫よは原氏のふとつとを結ハ菊咲たのうろやうに

ろめまゝ兒と云ふ也実 原氏の初は初乃うの肉と

海めまゝやあれとつとまにをめてよめつ也

つとろめまゝやあつと細 紫のうろ初とつとをてつとあり

後教の法をうとつとれつとろつとれつとろつとて二三日あ

つとろれつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

可ハナチカキ 教書也ハナチカキ 元はよつとあつていつきひして一書のいふた心也ハナチカキ 或流ハナチカキ 教とてしとてつと訓ありその心を 兼兼流

西条法師の蘭花とてよつとあつて異イ 横流也 元うつわの物語たるゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流

たつとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流 兼流はとらふとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流

ひつとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流 兼流はとらふとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流

あつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流 兼流はとらふとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流

元はよつとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流 兼流はとらふとあつたゆゑのたねわつた文乃流ゴ 転レ 又よつと二流

ふいに信守ら傍のちうみをわつしよまてぬいふちあらたに
や 采女カケミは懐妊の事也

人志まじの御事とてしとる存せしむるもつらあつたのこ
わりの事也 細 懐妊の事也 采女と密にぬりしとて思

ひびく

あつた信守らにいとくおれたとあつたと語りぬ 六月乃信守ら
三月は成給へといとるは信守らとて三月とみか月

せうもつたに信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
るもつたに成給へといとるは信守らとて三月と成給へといとるは

とにまじしとるは信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
は懐妊ありて卯月乃信守らとて六月を三月とて三月と

ちうもつたに信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
かしての事也二月十余日は冷泉院にまゐり給へし

今月乃信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
六月とありて卯月乃信守らとて六月を三月とて三月と

とて三月と六月と成給へといとるは信守らとて三月と成給へといとるは
不可成給へといとるは信守らとて三月と成給へといとるは

人くもつたに信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
しとるは信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と

細 親ふの事也 采女と密にぬりしとて思

今月乃信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
細 懐妊の事也 采女と密にぬりしとて思

今月乃信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
今月乃信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と

今月乃信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と
今月乃信守らとて三月と成給へといとるは信守らとて三月と

源氏乃

もや 早急の法はさし原氏のほむさうむちり
めーさうとさうもや

内めのもれ并命ぬちもそあやーと思へどおるるたりひは
くくくさくはくぬくたのうれくうのさるはくくさくさ
法中にお違有一本云法めのこころ并命ぬちも

王命ぬは法めなり也そくのみよと并命ぬちも

親行チキがみき并命ぬちの間より白くさるるも二人の

名もは并も法めのもやそれと王命ぬちの二人なり

はめのとる并命ぬちの白くさるるも并命ぬち一人の

名也 細 二人の名也河内本あり白くさるるも

新表紙 あり并乃命ぬち法也一人也王命ぬちむとめ也

但二人の法はさし原氏のほむさうむちり

命ぬちのさし原氏のほむさうむちり 早急命ぬち也

うらめき法物のさるるもこれめくさるるにうーれあうむち
ーさうーさうやうにさるるさうしん

素もる也 早急は懐妊のやうさを法がらなるもや

うへん付すあともんすあうさるる也

みふくもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

さして法はさし原氏のほむさうむちり

はさるるもさるるも 編 皆んもさるるもさるるも

早急のさるるも

中將のさるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも
さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも
さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

成法へさるるもさるるも中へさるるもさるるもさるるも

さるるもさるるもさるるもさるるもさるるもさるるも

いとほそれとわねと 茶 ぼんぼんちりちりしてのほん也

杖乃クきまうして心のいゝなるくのこ 茶 有葉乃ほるのあ也

茶 づいとくともあつてはあぬと杖乃クきまやうりあ也

有葉のほあつていんとうち路時ふと也

わりみまう人のほあつていんとうち路時ふと也 細 有葉のほあ也

あれうらうらゆるととまうひさほしととらう路時ふと也

る 細 その極うらうらゆるととまうひさほしととらう路時ふと也

茶 紫葉ととまうひさほしととらう路時ふと也

いんじうととまうひさほしととらう路時ふと也

茶 山あまの尼君のあ也 細 生るるんあつてととまうひさほしととらう路時ふと也

わらうととまうひさほしととらう路時ふと也

もろととまうひさほしととらう路時ふと也 細 保切魚

路をたひ路らうととまうひさほしととらう路時ふと也

茶 ぼんぼんちりちりしてのほん也

いんじうととまうひさほしととらう路時ふと也

茶 奇紫乃名のえほ也 細 葉の名字先をこつていんじう

いんじうととまうひさほしととらう路時ふと也

ゆるいととまうひさほしととらう路時ふと也

とらうととまうひさほしととらう路時ふと也

いんじうととまうひさほしととらう路時ふと也

権をこつととまうひさほしととらう路時ふと也

いんじうととまうひさほしととらう路時ふと也

おのろ美人らうらうらに有ひさほしととらう路時ふと也

入はうらうら 茶 是よりはととまうひさほしととらう路時ふと也

茶 物よととまうひさほしととらう路時ふと也

心は海鏡可也是よりと云ふと云ふ名あり
よふはきてきり物なりこの心也る意と世の松よ
してそ邊にゆく細路つらふ意とせりつらとせきて
しつら心の心は用らるるあり

十月は朱雀院の御事あり
元 朱雀院の後院也

元 院殿の内在也之系朱雀は四町は遠く
正喜乃清字にきり多しと朱雀院より十月
乃初をいふ系の松乃事なるなり
細 系系松をい
末橋奉ハ横登乃並也系系松をいハは松の中末橋の
中とに也系系朱雀とを代との松洞と也 系系松
乃初をいふ事とあり是とてそ人の初幸とらり

系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは

系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは

系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは

系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは

系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは

系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは
系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは系系松の事と云ふは

某 信那の文也

せうんろくまうりたるれとくねしひきつるもあつとんねん
細 世間存理 某 余志定離乃義也信那よお南初也

世中たうれとと長にうらめきまに思つしんもつうまに
わさるれはとて思やとてん 細 世間の事 某 某志の事

と尼志の志つしと思ひ信那乃はん也
こゝろとほよとれをりしととつしうねとちひつて

何さうとてつしひつし 舞 某 世の中とて思つるもつう
多成と女はとてつし又思申うとて思つるもつう

よらとけつととつし思つるとは思はと号けつととて
たう如何一様はとて思つるもつう 細 相葉の文也

いとれ建つし時乃つし思つるもつう 某 世間の事
か納まゆりあつしははとて思つるもつう

可然との心也

つらとて思つるもつう 某 世間の事
あつとつる思つるもつう 某 世間の事
とて思つるもつう 某 世間の事

某 世間の事
とて思つるもつう 某 世間の事

か納まゆりあつしははとて思つるもつう 細 尼志
の信那乃の事也

あひらうは神とて思つるもつう 某 源氏の事也
言にわつしとて思つるもつう 細 か納まの初也父志の事也

信那乃の事也
信那乃の事也

信那乃の事也
信那乃の事也

とて極るはくありのむれするに 細 少納言とあるはしてはむら
とと申す也

とてはむらゆり申す 余 少納言と申すはしてはむら
一を申すはくありのむれするに 細 少納言と申すはしてはむら
のそちひあしんやうらとて 細 少納言と申すはしてはむら
思つて 細 少納言と申すはしてはむら
とてあは板乃 細 少納言と申すはしてはむら
とてはとあり 細 少納言と申すはしてはむら
入あり 細 少納言と申すはしてはむら
用は奇 細 少納言と申すはしてはむら
ま 細 少納言と申すはしてはむら
の極 細 少納言と申すはしてはむら
君 細 少納言と申すはしてはむら

あつうをとを尾う也

はあをひうとれとあるは 細 少納言と申すはしてはむら

余 少納言と申すはしてはむら

宮乃わつ 細 少納言と申すはしてはむら

よら 細 少納言と申すはしてはむら

お 細 少納言と申すはしてはむら

余 少納言と申すはしてはむら

あ 細 少納言と申すはしてはむら

ま 細 少納言と申すはしてはむら

と 細 少納言と申すはしてはむら

と 細 少納言と申すはしてはむら

と 細 少納言と申すはしてはむら

と 細 少納言と申すはしてはむら

世程よとくしきりしちとあはれ也
 ちのちらしちもさちらひひもつちひししてまら
 君をわらひくいらはれいもささるあはれ
 是すひもりまらるる也

ちのちらしちもさちらひひもつちひししてまら
 君をわらひくいらはれいもささるあはれ
 是すひもりまらるる也

年比をわらひくいらはれいもささるあはれ
 是すひもりまらるる也

ちのちらしちもさちらひひもつちひししてまら
 君をわらひくいらはれいもささるあはれ
 是すひもりまらるる也

をくれとやめ 花か納言の詞也 従母君とて成給ていく程と
 るにとく程さほひとハキ也 細か納言の詞也とらとほひと
 つまると也 采河内本みさくはまひひよりとらみさ心
 ほきくともとあつとほひとを従母君にしくまほき
 々程とるにとく程さほひとハキも程の程也花をるを
 河内本乃序統也

よ程のらうひととて程みとく程き物ととて一絶さのやとく
 ちみとくわもやを程今事とてはてにうひとくを中く見
 と程 細尼君ととてうひ程也 采尼公とと程少少

父官決心也

ちみとくわとわわは 細父の詞也

ととせふと程人の程のうひとく一との程はれととて
 らひまのし程とく程とてとてとてとてとてとてとてとてと

ほつてふつ程へと官うちと程程とてとてとてとてとてとて
 ちみとくわとわわは 細父の詞也
 程ぬと程ととてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
 あとんととととととととととととととととととととととと
 ちみとくわとわわは 細父の詞也
 にちみとくわとわわは 細父の詞也
 ぬはととととととととととととととととととととととと
 てととととととととととととととととととととととと
 ちみとくわとわわは 細父の詞也
 極わとれととととととととととととととととととととととと
 ちみとくわとわわは 細父の詞也
 君の所もととととととととととととととととととととととと

ふつとくへん紙うちうりめーあきたらんあちちうりう
んをまりしをまのんきりて 糸原氏より所使ツキヒして乃初也
也のわんをれけり 糸原氏よりくしをわりてまはん
とて惟えよまんとけうんあつて也

あちちうりもほるうれ 細か細さるや也父父のゆきゆき
と也はまよと父父へは原乃ゆきゆきゆきゆき

糸原氏より糸原氏より糸原氏より糸原氏より糸原氏より
たるとの初也

きりぬめても初のうーめいびはまよもまよもまよもまよも
くのわらうまるとまよもまよもまよもまよもまよもまよも
まよもまよもまよも

あれーまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの
まよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよの

ほそくちあつぬくともむすひんてれてとふともくあり
ひて 細か細まるともこれいふも也 某父宮人け某宮人を入

と某さんとは遠可赤中惟えよか納言う務る也

ねさうあわうららに地ぬいともむすひらともむすれ
と 某さうともありらぬとの細也

まらりぬ 某惟えう原氏へあがり某さる也

某さ大原よわらりあつた 細 某さ乃はさう也

さの女君ともささいめんし終るに地むつしうむす
終く 某 某上の原も常にやうむす終るぬら

例とさうらり

あつるともくさしてむすらあつぬともさばくともさう
くさつともあつぬともさうむすらり 某さららら田と
くさばくともさうぬらとさうぬらとさうぬらとさうぬらと

まき原 内信 常陸守 何つらら 和 和の想えられともさう
細 ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

也 常陸守 ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

もりま 花 和琴 ニ 和琴攪所攪とて 神樂 カクラ 儀 サ 某さ用
らりありふ物ありともさうむす ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

り サウノユト 又 カクノユト 常陸守 ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

一 サ 稱海人の時と ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

係中 ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

は ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

常 ヒキヨク 秘曲ある也 常陸守 内信乃秘る白首のさう

いとおしうらうらとまきしあやしはあつたものなる
みとまきしあや 細 かんらうしれとてか納その傍あつた也

果 源の洞らうり 船まら カトロキ 路くあつた也

くね報書とていふあつたて入路く 細 じ

お中一るのくおあつたるあ白 群同

やともえおあしとまきあふおあつたあつたあつたあ
あし一路よあつたあ 果 かのあつたあ

あつたあつたあつたあ 細 父あつたあ

あつたあつたあつたあ 細 父あつたあ

あつたあつたあつたあ 細 父あつたあ

果 源も宮とたあしんも也

たまか納さるもとまきあつたあ 群 きつたあ房をえ

大納をえあつたあ 細 果あつたあ

果 あつたあつたあ 細 果あつたあ

あつたあつたあ 細 果あつたあ

あつたあつたあ 細 果あつたあ

果 父あつたあ 細 果あつたあ

あつたあつたあ 細 果あつたあ

あつたあつたあ 細 果あつたあ

あつたあつたあ 細 果あつたあ

あつたあつたあ 細 果あつたあ

しんきき... 糸が納言の初也
よのつら... 糸が納言の初也
あじと... 糸が納言の初也

しんきき... 糸が納言の初也
よのつら... 糸が納言の初也
あじと... 糸が納言の初也

しんきき... 糸が納言の初也
よのつら... 糸が納言の初也
あじと... 糸が納言の初也

糸 言はし... 何程

二系... 糸が納言の初也
のき... 糸が納言の初也

糸 言はし... 何程
糸が納言の初也

糸 言はし... 何程
糸が納言の初也

らわれとありされいとわらへきみくはるるまらりし君を
はそいよとふれてわらへるるに たの 采東の臺也
せめてわらへしあう心くさあめをこそ 采堂君と源
氏のまおてわらへる也

とく流るる人きうういあつとらんや 采源氏のたより
とくか後あつらんを流りしうくれわらへしそと也
ふんやううれるるらんうけるるともよつととく色ゆり
河端嚴女天后大慈心柔軟 華嚴經 采源英の男
女婚姻賦云至柔者女と云文粹 細花の男女婚
姻賦源英明作と撰也後日相公の作也 采源氏乃
品定と思ふとの終り

はうらひはしとれまそらんとらとらみしうさうとて
るうらひはしとれまそらんとらとらみしうさうとて

はうらひはしとれまそらんとらとらみしうさうとて

采うらひはしとれまそらんとらとらみしうさうとて

うらひはしとれまそらんとらとらみしうさうとて

やうくわらへかてん終よひつらのとらとらみしうさうとて
孰ともとれまそらんとらとらみしうさうとて
とらとらみしうさうとて
採母の振とるも也一花らん終よひつらと可換尖色
みも採母の服の中も也とてとてとてとてとてとてとて
とらとらみしうさうとて
結海よあつとれまそらんとらとらみしうさうとて
とらとらみしうさうとて
也とのられ也採とれ採母の服とて採るる今もはら

こそ尾君紙書の中を尋ねてうらむるはなほと尋ねて宮よと
 ありとちひびききし路りひもとらふらんあつひのちの路りてふ
 らひ終へれハ 某原林の中にうらむる路り又の路りありとら
 けいひも君はうらむる事也 宮よとていひ 細父也
 といふは後の親を尋ねてうらむる事也

後のちや 細原也

のよらむるひも尋ねてうらむる事也
 とらふる事也
 のよらむるひも尋ねてうらむる事也
 某原林の中にうらむる路り又の路りありとら
 けいひも君はうらむる事也 宮よとていひ 細父也
 といふは後の親を尋ねてうらむる事也

くらにしろはのひのつらうらむる事也
 てあつひあり 某

某原林の中にうらむる路り又の路りありとら
 けいひも君はうらむる事也 宮よとていひ 細父也
 といふは後の親を尋ねてうらむる事也

某原林の中にうらむる路り又の路りありとら
 けいひも君はうらむる事也 宮よとていひ 細父也
 といふは後の親を尋ねてうらむる事也

Handwritten title or header text, possibly a date or location.

Main body of handwritten text, appearing to be a list or series of entries, though the script is very faint and difficult to decipher.





